知ってる？ケルネル田んぼ

取材・文・写真／香川えり子

1 はじめに

井の頭線の車内から水田が見えるのを知っていますか？駒場野公園にあるケルネル田んぼです。目黒区に現存する唯一の水田であるこの田んぼ、実はすごい田んぼなんです！いったい何がすごいのか紹介していきたいと思います。

2 名前の由来

明治11年。政府が招いた船津伝次平ら（※）によって、駒場の地に農学校がつくられました。日本人の手で苦労してつくられた田んぼには、欧米から多くの技術者・教師が招かれました。ドイツ人のオスカー・ケルネルもその一人です。彼は日本で初めて化学肥料の使用を試み、実習田で土壌や肥料の改良に取り組みました。このときの実習田が今も残るケルネル田んぼです。

3 存続の危機

ではどうしてこんな都会の真ん中に水田を残す事ができたのでしょう？実は長い歴史の中では水田をなくしてしまおう、という動きもありました。しかし、近隣住民たちの運動により手厚く保護され公園の敷地内に含まれる事になったのです。

田んぼのすぐ近くを電車が走っています

たわわに実った稲穂

4 中高生が守る！

毎年、この田んぼでは田植えや稲刈りといった作業が中高生を中心として行われています。ときには小学生が一部を手伝うこともあるそうです。そうして収穫されたお米は田んぼを管理している学校（筑波大学附属駒場中学校・高等学校）で入学式と卒業式の折に赤飯にしてふるまわれるそうです。多くの人に愛され、守られているこのケルネル田んぼにみなさんも一度足を運んでみてはいかがでしょうか？

▲田植えをする駒場小学校5年生（駒場小学校提供）

※船津伝次平
1832年、群馬県富士見村で生まれる。「明治の三老農」の一人で幕末から明治にかけて活躍した。

※ケルネル田んぼについても松本さんから情報をいただきました。

いつか来る！地震のために知っておこう！非常食

○何故非常食について知っとくといいの？

日本は地震大国。最近では東京でも近いうちに大地震が起きるのではないかと懸念されています。そのため、目黒区でも地震対策に様々な取り組みがなされています。
めぐろうでも、地震への関心を中高生を含めより多くの人に知ってもらおうと考えました。

○”非常食”とは？

非常食とは、非常事態の時のために、保存性に優れ、通常の食料よりも栄養分が多い備蓄している食料のことをいいます。
非常食というと缶詰めが主に考えられがちですが、今、先々の非常事態に備えて、その様な時こそ美味しいものを食べてもらおうと工夫された面白い非常食が増えています。

○何処で買えるの？

買える所は大きなデパートなど様々です。一番手っ取り早いのは、通販といえましょう。
目黒区では防災用品の購入あっせんを行っています。

○目黒区での非常食の状況はどうなっているの？

目黒区の人口は約２５万人。区では、都の被害想定のもと避難場所への避難者を約９万人と想定し、災害対策用品等の備蓄を行っています。
備蓄品の内容としては、アルファ化米、ミネラルウォーター、医薬品、懐中電灯などで、食料は主に主食となるものを備蓄することにしています。

取材・文／中村英里奈

目黒区防災センターの方にインタビューしてきました！

インタビューに答えて下さった防災センター職員の方

Q 東京都では近い内に大地震が起きると言われていますが、実際のところはどうなんでしょうか？

現在東京で地震が起きる確率は30年の間に約70％の確立で起こるだろうと予測されており、確実には言えません。

Q もし地震が起きたら、まずどうすればいいのでしょうか？

まず基本は、
①テーブルの下などにもぐり身を守る
②電気をとめて、ガスの栓をしめる
③家族の安全です。
次に、家にいる場合は、
①電気をとめる
②ガスの栓をしめる
③出口の確保が重要です。

Q 次の行動は？

基本は家の危険度を判断して、前々から家族と相談しておいた避難場所に行くか、そのまま家で様子を見るか判断します。
家には生活用品や食料が揃っているため家にいることがベストですが、家が倒壊した場合、避難場所等に避難することになります。

Q 目黒区の大地震発生時での区の対応はどうなりますか？

①地域防災計画に基づき災害対策本部が設置され、被害状況等の確認と応急対応がはじまります。
②第一次避難所を設営。（施設の安全確認を行い、避難所として必要な毛布や給水設備、仮設トイレなどを準備）
③さらに食料・物資の調達、搬送、給付、被害状況の調査、ゴミの処理。
④これらの業務は出来るだけ早く、しかも同時に行わなければならないため、大変な時間がかかり、内容によっては区民や、ボランティアの方たちと協力しながら行っていくことになります。

Q 被害の状況としてはどうなるのでしょうか？

都が発表した目黒区での被害想定は死者数は約８６人、負傷者は約３,２３８人、帰宅困難者が約６０,９８２人と予測されています。
死亡原因としては、圧死、火災で逃げ遅れなどがあります。

Q 救助が来るまで最低でもどれ位かかるのでしょうか？

地震が発生した時間やいる場所によっても違います。
建物の下敷きになってしまったなど救助されるまでに３日以上かかると生存率が急に低くなると言われています。

Q 地震発生から何日でほとんど元の生活に戻れるのでしょうか？

ライフラインが破壊された場合、電気が通るのに１週間、水が通るのに１ヶ月かかります。

Q 将来の地震に向けた対策にはどんなことがありますか？

建物の耐震化や家具等の転倒防止対策を行います。地震の際、電信柱が倒れてくるという可能性があるため、現在目黒通りの約半分で電線が地中に通っております。

Q 中高生である私達が地震の際に出来ることはありますか？

地震からの応急・復旧活動の際、中高生の皆さんには、救助活動を行う人たち（消防団や災害時ボランティアなど）に被害の状況を伝えたり、救助活動を一緒におこなうなど協力出来ることは沢山あります。
多くの人の協力により救助の時間が短縮されたり、より多くの命が助けられることになるのです。

ありがとうございました。

最後に、めぐろうの編集最終段階で、東北地方太平洋沖地震が発生しました。
被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。

阪神淡路大震災時の写真